

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
増	ソウ ます ふえる ふやす 教5常①		増	増	増	増	増	増	増
増	人③			増	増		増	増	
墨	ボク モク すみ 常①		墨	墨	墨	墨	墨	墨	墨
墨	人③		墨	墨	墨				
墜	ツイ おちる 常①		墜	墜	墜	墜	墜	墜	墜
墳	フン はか 常①		墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳
壞	カイ こわす こわれる 常①		壞	壞	壞	壞	壞	壞	壞
壞	人②		壞	壞			壞	壞	
墾	コン たがやす ひらく 常①		墾	墾			墾	墾	墾

【壞】説文解字の大徐本と段注本の字体が微妙に異なる。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
増	増	増	増	増	増		増	増	増	増	増	増
				増								増
				増								増
墨		墨	墨	墨	墨		墨	墨		墨	墨	墨
												墨
墜	墜	墜	墜	墜			墜	墜		墜	墜	墜
												墜
墳	墳	墳	墳	墳	墳		墳	墳		墳	墳	墳
												墳
壞	壞	壞	壞	壞	壞		壞	壞		壞	壞	壞
												壞
墾	墾	墾	墾	墾			墾	墾		墾	墾	墾
												墾

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
壤	ジョウ つち		壤	壤	壤		壤	壤	壤
壤	②		壤	壤	壤		壤	壤	壤
壇	ダン タン		壇	壇	壇		壇	壇	壇
壁	ヘキ かべ がけ		壁	壁	壁		壁	壁	壁
壕	ゴウ ほり		壕	壕	壕		壕	壕	壕
土	シ みむらい		土	土	土	土	土	土	土
壬	ジン ニン みずのえ		壬	壬	壬	壬	壬	壬	壬

【壤】1981年(昭和56年)に当用漢字表外から常用漢字表に追加された。説文解字の大徐本と段注本の字体が異なる。

【壇】『陸軍幼年学校用字便覧』に正体が「濼」、通用字が「壇」とある。

【土】漢代までは「土」と「土」の字体が一定していない。日

本上代から平安も「土」と「土」の字体が一定していない。また、日本上代から平安には「土」に点のついた字体がある。

【壬】「工」や「王」と字体が衝突する。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
壤		壤	壤				壤					壤
壇		壇										壇
壇		壇	壇	壇	壇		壇	壇		壇		壇
壇		壇										壇
壁		壁	壁	壁	壁		壁	壁		壁		壁
壁		壁										壁
壕		壕	壕	壕	壕		壕	壕				壕
土		土	土	土	土		土	土	土	土		土
土		土										土
土		土										土
壬		壬	壬				壬					壬
壬		壬										壬

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
壯	ソウ さかん 常①								龔賢指歸
壯	人②								龔賢指歸
尗	イチ イツ ひとつ 常①								龔賢指歸
壹	②								龔賢指歸
声	セイ ショウ ごえ ごわ 教2常①								王勃詩序
聲	②								
壳	バイ うる うれる 教2常①								王勃詩序
賣	人②								

【壯】干祿字書では旁が「土」だが五経文字では「土」。  
 【尗】「尗」の異体字で、「壹」の草書からできた字だともわれる。  
 【声】康熙字典の「声」の説明に「聲の俗字」とある。陸軍幼年学校用字便覧に「聲」と「声」について「賣へ別字」とあ

る。漱石は『坊っちゃん』では「聲」を書き、『こころ』では「声」「聲」の両方を書いている。正(統)字体を習ったはずの年代の太宰治が「声」を書いている。  
 【壳】説文解字の大徐本と段注本の字体がわずかに異なる。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												壯
												尗
												壹
												声
												聲
												壳
												賣

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
壺	コつぼ								干祿字書
①		甲骨	甲骨	睡虎地秦簡	説文・支部	馬王堆	武威漢簡		
壺									五経・土部
②		甲骨	金文	中山王方壺		馬王堆	居延漢簡		
									五経・土部
		甲骨	金文		武威漢簡	禮器碑			
変	ヘン かえる かわる								干祿字書
教4常①			睡虎地秦簡	説文・支部	馬王堆	西夏山碑	唐・書譜	王獻之	敬史君碑
								等慈寺碑	
									王勃詩序
變									
②			睡虎地秦簡	段注・支部	馬王堆	史晨前碑		秦穀論	張猛龍碑
								泉男生墓誌	
									王勃詩序
			金文						空海
夏	カゲなつ								
教2常①			秦公段	睡虎地秦簡	説文・支部	馬王堆	孔宙碑	十七帖	集字聖教序
								高麗師範記	孟法師碑
									王勃詩序
			郭店楚簡		居延漢簡	鄭固碑		中岳高平碑	
									尹宙碑
夕	セキゆう								
教1常①			甲骨	金文	睡虎地秦簡	説文・夕部	馬王堆	居延漢簡	妹至帖
									集字聖教序
									元詮墓誌
									九成宮
									九経・禮部
									王勃詩序
			甲骨	大孟鼎		馬王堆	熹平石經		
外	ガイ・グ ワイ そと ほか はず はずれる と								
教2常①			毛公鼎	睡虎地秦簡	説文・夕部	馬王堆	敦煌漢簡	十七帖	蘭亭叙
									高貞碑
									孟法師碑
									九経・禮部
									王勃詩序
			金文	包山楚簡	説文古文	馬王堆	史晨後碑		雁塔聖教序
									九経・禮部
									聖武天皇雜集
			戦国・金文	郭店楚簡		居延漢簡	武氏祠画像題字		

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
													壺 中国
		土8		坊っちゃん	明治の漢字								壺 台湾・香港
		土9			陸軍								
													変 中国
		言16		坊っちゃん	明治の漢字								變 台湾
													變 香港
													變 台湾
													夏 中国・香港
		文7		坊っちゃん									夏 台湾
													夕 中・台・香
		夕0		坊っちゃん									夕 中・台・香
													外 中国・台湾
		夕2		坊っちゃん									外 中国・台湾
													外 香港
													外 香港
													外 香港
													外 香港

【壺】陸軍幼年学校用字便覧では「壺」と同字とする。漱石の字は冠より上が一画少なく下が一画多い。陸軍幼年学校用字便覧には「壺ノ下ハ亞ニ非ズ。」とある。

【変】秦の睡虎地秦簡も漢代の文字も下部は「支」ではなく「又」。説文解字の字体が誤りなのではないだろうか

